3119

へ13
3119

特
へ13
3119

昭和九年
九月三日
購求

序

嘉肴あり上の人ごと。食せざれば。其味知ることなし。
國治まるよりは武士の忠も武勇も世にあらはるる。
大序の詞よりづひとく。破れ中の金あり。泥中より
蓮あり。人と馬とに乗るべしよ。そもそも見よと云義
本の詞由良之助も野猪も。ひとつ役者の仲間入
用ふると用ひぬとは。とくやの饅頭崑布巻
作るとひとしすりぬ。この頃ひる弥の作
天満寺のらくまとこ。忠臣蔵の作者

帝国図書館蔵

よめぬ所よ筆を加へて。ぞく〳〵一冊ちいさくらうの
ぐ三國志をよめる人の。孔明関羽張飛。ぞく〳〵ひのみ
手づるのひの人形とゝるゝ。演義をよまざる話をとゝり
おのれ古寺古廟のぬりどめをさゞる。異本ずゝのひゞ
心よりゝ。げゝ山書い孫呉ゞ秘書。我ゝめの六韜三略一
別以来めづ〳〵しやと。獨めゝゝゝ孫子ゞゝ風雅でも
ゝ〳〵洒落でもなゝと。日本一の痴漢抔めゞみの。

六樹園門人

石川清澄

忠臣義ゝよ長門本ゝゝ。新板かゝゝ道中
ゝゝ。ゝゝ目をなゝ〳〵の尼ゝ〳〵ぬ。育法師の婚礼
天。三國一の三平二滿。ゝゝゞ作者のゝゝ敵。
狸の角を清ゝ種ゞゝ。兼心ゝゝ二ゝの
い〳〵ぶみ。無ゝ所著のゝの謎。ゝゝゝゝのふ和の
ゝゝゝの学下。あんどよ取ゝ賜物の。餞のゝゝ旅衣
ゝゝゝ睦月の書初よ。ちゝよやちゝよさゞゝゝ石の。
いゝゝゝよ苔ゝむすゝ株七葉亭椿丸ゝゝて

よこ本のたゞめふんおれが
やう布男ゞ〳〵つてゐる為
ゞとりつて去ゞゐがつり
のおきまでをひきだゝて
とゝみ〳〵せておく
やつよ

ア、
とろ〳〵
びく〳〵

そゝておれがあゝるのゝて詩の
一首もかいてゝれゝべらゝよ
こけおどゝ〳〵ゝらゝてゝも
さゝぬ作者ゞ
さゝゞ

叶かさの
けびきを
さぶれてちよつと
ひゝとところを
りうかうよおゝきぬ
つゆりぶぶ
あんとく

ゆくゝゝとうもゆどうぜんよ
あようぞんぜざとかゆうよ
〳〵つてまかりをる

芝居の仮をしてくのよ
ワーをえて人ぶ与一をくろと
いひまーくさんちろーぐきの
ふぎりめーをもつてゐる
由えぐ
あらうろ

そんよさおさをもおかるであらうと
人がらひやーくワーさーやなとうんでも
よつるどまりのおめいかぶりのを

おいらア三人のかりうとぢやアぬくよ
附よ幕グあらくさらう
まいりてそめうぢやア
ぬくう

正是老狐魅里正
不知猶戸在後
とは
どうぢく

本舞臺三間のあひだ。葵屋づくり。種ヶ島
六義ぐさみうの体。勘平が切腹の習ひふく。
六段目の竪ぬきあみあり。めつわら弥八裡の
角兵衛。三人の樵人は義太夫文句のまま
くる事をまうさず。書伏生ヶ作へり
あらざと。稗田の所禮ヶ口授ふあらざと。大夫
直傳の正本あらねば。聊音節墨譜を
用ひざるを。淨瑠璃のあづまふり。を諳ふて
幕を明せり

長門本忠臣藏

○山ざき

山崎の村をづきよ。倒れ家あり。貧乏神
の現形ありて。家よとあめ。宮柱ふとくたてたる
煙りぶくよ。たえく近所の買ものもそこそこの家
い壁紙のやぶれ紙帳のあみあ[illegible]
すゑひろり。あちらこちまを[illegible]の福乃神を。三合を
酒でまぶらふす。上戸のひしひし盃まへのいひとけ
なをを。種ヶ島の六義といふ樵人は亭主あぐらも

こちひろ〳〵。酔てハ三百六十日。月〳〵ゑ泥田を棒の
さきゝうちをゝなる遊びずきゝるすゑ油断も内
義のお市すぐゝ貸ちゞと。おもゝく夜食の
おもゝまりゑ。一夜とゝゑづけし盲の子。おもしゝくの川
の字ゑ。新子三人寐〳〵ゝのてゞ。見えこゝね果報ぞ
ぜひもゝこゝ。さみせんひきさしセゞきの一夜「モシ」く
おもゝゝゝ。〳〵ゝゝまゝごのゞゝちゝやらぬゝ。「さきゞい
の。をとつひ出らきてまゝごさのゞゝちゝやらぬゝ。おし
いゝゝまゝをゞゝつゝく。おの玉なゑつまゝきち

さつきちゝらぬゝ。わんゝまだんゝなゝゝゝ。ゝゝゝゝ名ゝ
のち下戸〳〵上戸と夫婦ゝゝゝゝゝゝゝゝのゝゝゝ
てのちゞひぢゝゝのゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

犬の男

世ぐさせるく。アノ一夜検校とのふことをけん
とくふしてけんぎやうまをして見るに望ぐそなた。
一夜とつけるとのいのサアく又奥へいてけいとの
ぐ〳〵つまてのさみせんさらや。ドレひる飯のまるく
せうかとたすきをあつてさ〳〵ぐる。つまづいの
中道づるひ筆〳〵とうつるるおやぢみセろさきまも
去むしいやすむと。うるとうるひて主の六郎。留帝
の先へ行燈を白い布まてむすびつけ。踊り狂ひて向り
くる「ヲヽ生酔どのお久ならといひつるく女房のお布ぐ

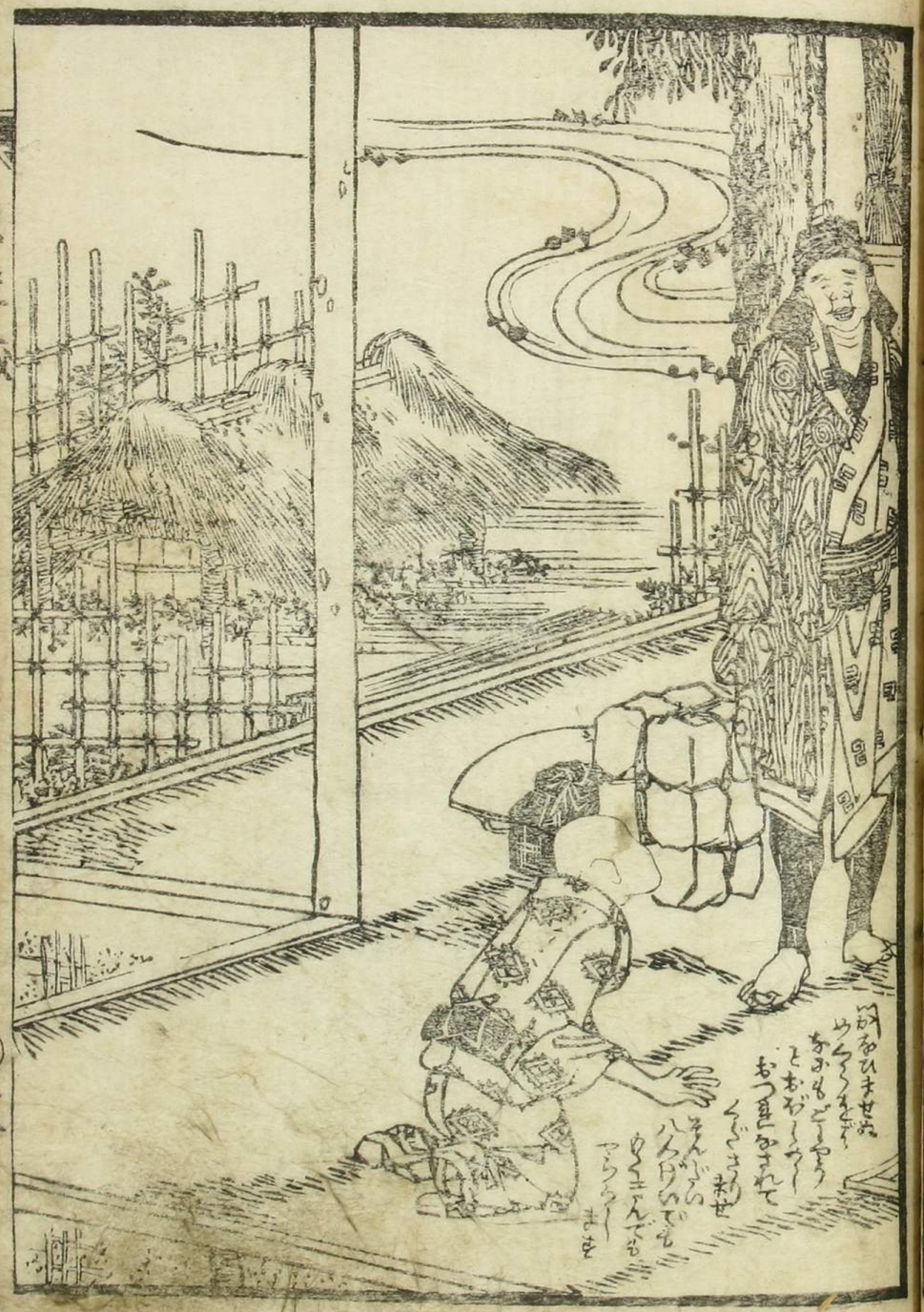
かるう汲でくる。茶椀ろり塩茂一つのみ。酒のあぐ業。
酔ざまーぴとロのんぐ。あとらあけ。ぜろい
くるりーろう酔さ酒。さませらいてあるる夏
のみ。時ろおとついのの外ぐそ。つよひ夏ぐあつる
ぐ。屋根ぐさぐりるさぐあらるる。「りつるこだん。
市歩へすりぐちぐつ。けしや結をあつるくあのいぐ
ろいのそしてとなさん三日ぐあり。どうり上まつ
るくなさんーぐされがとそ大るの事をおるあ
れ。丹波与依ぐあるり。極楽いいづくのやどぐ

しよ。酒のさげんくねくとれ我家。キットとむくの
ようぢや。早くのおやゆびをつくつくついぐふめらぐや
ど早くさたで。それこれるくちゆれさつちゆるる。疎
どれくめつくかくい。おどとするひゆぐるのいぬめ
んこくくたそひるし。おそれがれいよくこのかた
のさげんよるくぬそれへるゝ仲るのめつぐう
絲八すげ笠くりめん合羽。くちぢくくくの
よべわびき絲八さんようおさ。それびおまへ絲
ぢくちやぐどく俄ふいうちゆんすとくへでめつ

ぐう。それぐくでーぐ見い鎌倉の町人大名めくへ
出入くく。早くるるめくくう中る六尺日雇くも
りする。ぐ商賣。所ぐ早ぐ病氣づく。四づるりの
もるいさめひ。わくよ行つくお續せいこいくく
おとくぐ。ワーも又らちの明ぬ狩人もくよう。を
の方ぐまくと早くく。今めく俄くくるまつけ。
ちよくといるるどひくきまくくとのくい氣ち
くく目るめぐくそれいめくくこいく。時よるる人
の肝入とくけぐるんと在公する人ぐあるぐつれ

くいんぐらいでさるまいう。「ものいやうけのめ高
賣のくまちきび。なにんすめくいうがしな
そのまにんといふ。「イヤわめでもないーがせぐん
の一枚めをなにうやうりのぞみどのたい市。
めつちうる。めいもんへぬあの一枚を。なにうど
うちくに出されく。又れいの価きちがひらちもの
とといいんすなやりとむきび。「いやくさけのふ
ひ本性さがへず。性ねいつの糸どさいぜんめ。価の
名ひいさめくある。こ糸八反。おざうを反つめて

ありとも。おみのつをのいぐ紙。ぞうぞせぐれの
市枚めを。つきくいてけされと。たのめび糸八「そ
れいさいきひうとがある。見ぐを紙よりあくあと
しとの師直孫のお賣うう。ついの生頭がある。な
らびのくちうるきくいとめをひのこつるのうびの
あくおこせ。ときくせくきたれがつきくのんぐ師
直孫のお賣へ出さうう。「なの師直孫のおーち
まくざうのうのぐおをちや。さいきむくびあ
ぐう金のりることがでくそのくあんさい師



どうぞせうぐもつをいて下されいとらあるめつ
かう。こうえつく。はよる六度。一銭をなる出すか
うそうそうそう金のゑみがあるう。サアさーあさい
て十両ばかり急よるれば。ぬ金。そでか金て
さんあんどらて盲の子をてでるす心を。すいりやう
してどうぞ十あよ買くだされ。イヤくとりやるれが
名のめつかうぢや。どうのらあざとうの場を十あ
ざーてどれがかつのでちのーちめくのうのみる
れば。どうあるるつくいるうう。ふすりやあよ

をうくいかそれぬぢややくぐ。ハテるんとーこあであら
うと。あをとめを。女房おいち。がてんのいうぬざん
る屋かそいさうあの一夜さんおよでもあるを
う。遠いそるのよ鎌倉三ざい。どうーてをまをかやそ
ぬ。こりやとなさん。さがちちうあさのとりくを六番女房
が新所つくぐうちまりひさんの涙りくん
けるが。ひやや女房。そちいるんもちくぬ。ぬどを
おれとそるさが仲人ぬや。よ市会朱どのハ。おとつひ
廿九日の夜。人よそくれくそいあ。ハアそ

れいまあ。コリヤまづびつくりする。つねめうこれがわ
めゝかる。ふしぎな勘平屋も。そゝきつゝ。ちんぢゝ
あい。コリヤ〳〵それいわんのいのつ〳〵女夫ぐまぢゝ
けのとうびあひ。ひづかしらまりと知る。なんぢ
自のくらひとつゝ。のうう夫婦ようゝわれぢんぢ
しもつれぬ恩ある人。そのうこ婿の勘平自と。
武士家のないやさしい人。コリヤまあどうちゝすの
であろ。そしておのる自のみのうくゝ。おのる自か。
ぢあん町へつとめなさ。あとふのこつかおふくろ

一人さのかのゝ泣つめうり泣ゝぢうりわゝれる
ひとぢゝのゝ夫の河おいらのあぢうせちゝ
あげゝ。たよりのないいねのあいねのとうらみ。山ゝりまも。えへゝる物とういこ自
ぢうりひひまーゝ。のつとひのひが自一ゝ人自か。
おとつーのうく。勘平自い三外ゝ成田屋ぢ七代目ゝ
ういお人のゝゝさるとい。さぞのるーうう。くちを
しうう。さぞらうぢあゝふのかなぜとで自
くれ下さんせぬ。祝ぶんのくみこさいうぬゝさ

しが身のおちぶれ袖乞ぼんぼんぶらりく。却平屋
のさいごといふ。ちうとなる一きく屋の。死骸より上
おちる。そのかたがいなうそこんざいてゐる糸八屋
と。狸の角兵衛とおれがちぶそとそべよういて
ちうこ。ちうもりもう。つうこ物乞。笑止といふ
こぞうり。すぐうり生くゆつこ友。あつこらしい却
平屋と。みすくころしてちまつこぐゆこるげく
がとも。諸行無常。せうめつのとわう
うぐく。お代官へねぐうく。のうこととうくりち

ちあれとのうこ。しが名のせうめうりうひよ
んな事さいひまこと糸八白十面六屋八涙の
袖乞打くひとれものの糸ぐく。せめくお
れがこうざ。石塔ふこう建立そおふこうれた
るこ屋のこうと。おりくどまづこいおれが紙せう
へぐうせうと糸ちうち。糸八屋のそなこちぐお
りひつこと一夜がなぐ。ぐうをこくゆうぐうれう
ふめくのこを人手うこうす。故郷が心の
ぐうこうあうとうこ速ひぞと。声屋あげくむせう

おそろしやあくらむじあくらしきりよ
かくじまつやらまてえちちきり
をくさんてあるでおらく
ちあむせく
あまくちおそしぢやとて
おまひとりのれうけんぐ
こをとうざとうよ
しやうとう
そのうね
まま
ちろざとう
そーや
それぐ
くろ
ざとう
ぢやこいの
おそをうるくとい
かげまあでもさろう
ちびざち
せんぐうの
おあさね
めくひきを
おうくぶよ
山の神の
はたくさん
おそをまこくて
ヤきヤうけ
やぶれさおびの
そをを
ふりそそ
きこーめビこ
ヤき

ぞ。さてさいさうの心ぶくあらうと。お二人のぞいと
するぶ。一杯が勝れ。縁ごとう。縁日開帳の庭うたり
ゆきての人う物をとひ。祝ふられとるいとうまじ
あんま汁とよびあるたさえてる冬の寒重や
氷うとぶられて。するどい風う吹くふさき。
うきうんすんをすれば。うんのいとそう絲八百。
おつれすされて。たされと。鼻をすりぶそを
ぶく。夫婦がそろをお。おひひやりめつやうもめとたば
そそき。道理づくめのふうれるげさうぶ。

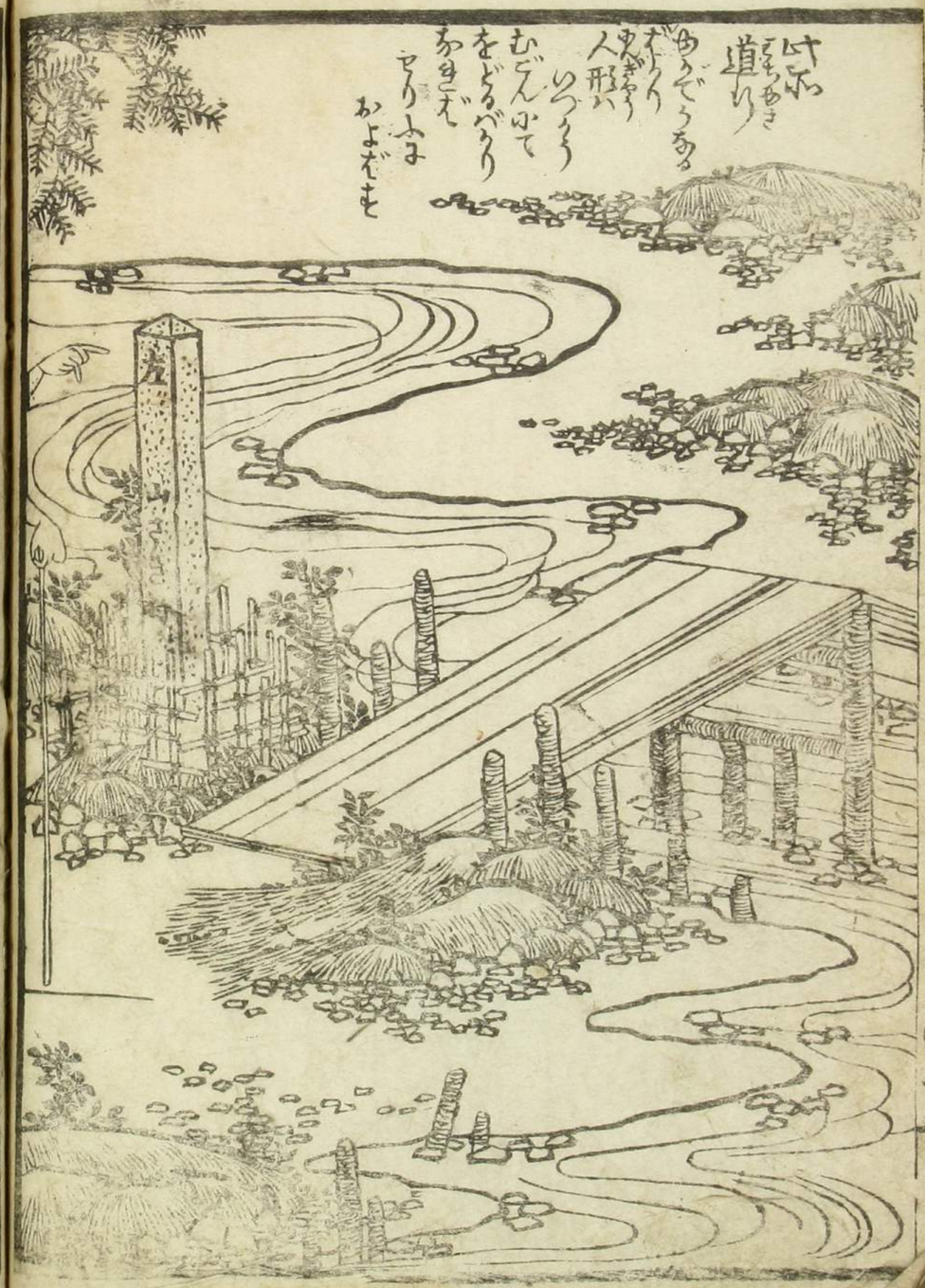
又ーの商賣のうひ山ぶみう。めくうのをを十銭
よりぶくいえへさいしそいひとけなし。ハテとすり
さ物。とえうをとうい。お市こつく徒利とう出し。
うれいけさ買うおいさぶ。絲八百も六箱おのも。
ぶくぶ一杯あげりませ。ゆるをと候合ぶこうぶ。
又よひ去あんもあうとそ物。うの人もうみ
をりしてるれば。酒ぶもむりよあぶぶずべよも
や金もぶぐくまいと。徳利をぬぶ釜の中ぶこむ
ちうのぶんぶ。これハすみ酒れちうや。

糸八ぐあいさつ。六蔵いとものない奥まで入りて
人のところのあくふのもさ。山海のあそびやと。弘法
て寄りくる人い。狸の角をくぐ女房おきん。
のあないの案内ばいひしひしひざくりげ。鳥
銃を腰にこしー行義おまたび。いやりの戸ぐち。
「たのみませうくといふ声ー。さすがそびて
とんぐ出るい。おったりあるどの女房のおいち。
「ようれといひて新を見あいせ。「これいくおきん
夏。さあくとちくのもおりー。「まとちそのちち。

ぶさたいとしまーぷちとおめりめくりるひ
やうすまつた。つぐく糸をまーたと。ちゃでりうけ
ておりてのうと。娘とよび出せば。谷の戸あ
ぬ義法ー。教鳥むすめのひぢうり股頬いるく
て鼻ひくこいろは丹花のくちびるふも。あつぶ
ちたるれがうしのうち。「あの一枚目のおやー
さかりうとめぐーしゃちぶうしいも蟲がよーし。
「すくとれへおとりとお市ぐあいさつ。狸のふた
ん。八ちくあへうちとれば。すふいそくむすめ

のお福。毋つたそひ。坐るなれば。おいちやとや
うようち向ひ。よそゆきのぢでおさい。糸ま
いりあされつ。ぎをん清水。ちおん院大佛さま
の鼻の穴へい。ゆつと舟ぎをひるといの。さんのくるま
ぢえい。狸屋の方へいよいつぐがりそる事といふ
うちおさん行義をあつあつめ。今日ゆかアしへ。
外の事でもどざりません。とれる娘お福と。
島の一枚屋とひひなづけ。しとれと。酢のちんぶ
やのと婚礼も延引。方々ぶんの娘そゆり

おつとーゆとさ。鳥銳へ夫ぐ重代。これ死ひき
ぐみ上まして。六藤屋よもお目りのくり。祝言
させおちつたさひ。さいちひけへの日ぐらもはし。
用意なされ。仕さりませ。こ仁ハすると。ひ
もよくぬ仕せ。なるやどさぐつく。狸屋の娘ども
らひませう。おくべくれらと。のひゆくそくへゆた
れども。貧乏ひまがなく。三人ぐらよもおへ生
ますれば口のふえるを。おそれる中へ。ひりゆくそ
くなればとく。角をくを。のおむすめど。娘よりひ


寸法
道り
ゆるぎうるぎ
だいくり
人形
いつくり
むでんかて
をどるべくり
ゑまこて
とりふま
およびをを

うけまして。桃灯うつりぐ絲。下げ結とゆをみえ。
その焼味噌のびんぐらう世帯へ。お福屋とい名もつ
をあいねび。此よめいりい。変改しますと。ずつけを
いくで。ひやく〳〵いつとんなたのみを。とりうんしとれば。
天下とれ〳〵の一枝ぐ女房。今おりしろい女房な
らば夫ぐさる。一枝よめちう〳〵け母ぐ。さひと峠のさ
ざえのつぐ焼。ちりのぬくまぬをの内ち。とうと
といんぐりひませち。たゆく〳〵といひそなし。心
へだての荒すぐれ。ぐとと引あ内入りけりむす

めいつと泣出し。ごとりおぐけとしやないと。
すぐりなげくで。母おやい。娘のおをつぐとう
ちうめく。親のよく目ぐ。えとぐうもんよ
そなとこのちりうう〳〵。頬い饅頭團子鼻目い
ごれまうと。なく〳〵声い鶏ちいくつひてい。
よいえ世物と人このとるちいをとてようけ。
只乃人ちそいせ〳〵いあいをづうしれちれとあ
る。めく〳〵の女房ぐ相應と。縁をくんぐ一枝どむ
とふちこさびさつとといんぐりちいそれぬお

市どの。だんが高大寺のおのとほり。うんぐさが
それこそ。そこなおいらの毛まんだらめ。すつこし
むすめ。今さく通りの男れ性根。さうこそうみなつ
らあるこ。ゐしづる坐頭。せけんう山。ゐうのめく
らうそうみさいないう。こレきううと返るすきや。ど
うだやくとるる紙のきいたり弱。めしの養や
笠ふうる。母の河いうれしひ。「夜」女夫ふまみ
えず。さとく夫がめくうぐも。ゐまち洗うどすす
ねうよ。日のある男と同前う。ずうずくねこ

めるも。つまみぐひしくうものうれる。とねがしま
夫婦の虎へ孝行をしくう女夫中。ひるくうこけて。
さうるうと。とて母のおつしゃつをつこしやよ
うおばえくわる。一歩母よりゐみとのどん。こ
しが心りうるひまもぬめくくとひとすだう。
声死こてめくこ心ねこ。さくまこうね母ゐやの。
涙の玉とめおさし。めくどのてつぷうとうめく
る。母ゐとれい何どとおしとむれべうくうこ
一間の方死うちみうこ。「世」の中のとうこめ。ま

いやのうやつ〳〵い。百の淵をぶつつけ〳〵ゆれと
いふものあり。とりをりふしりちあひなければ。
朝鮮国の女郎のつとめ。百の淵のかたりよりぞ
へ。け鳥鋭をとなし〳〵。おいちぐつ〳〵ぶつほけて
やう〳〵。そこをとなしやと立あがる。折〳〵ひとゑ
の障子をおしあけ。耳そぎとつるめつぷり絲
ハ。そをとりい六義酔どもち。枕ぞし〳〵高ひび
き。とるこへ鳥鋭とりあくれ。とりつ〳〵娘よめも
かけず。一間よむい〳〵おきさんがねぶひ。どうさう

すうんとをなせる音。耳をうつ入〳〵やあるゞ乃
六蔵。すつくとたつ〳〵。今をなせし鳥鋭を。
筒ゝ音あつ〳〵とたり。おとなし。ふとんの上の
寐小便う。さくい玉をきそそてつぷうなるあく
万八どとぷんまいす表のたりどの方。蚤いとびさ
くふいい〳〵世の中ゝ。なるとゝ蚊のつれなるい
らん。女房よろとべむすめよめどよるこいあ。
といひてをひる狸の角〳〵。紙い稗蒔の葉山子
のごく。義ゝらのつぎ作のの笠ぬぎすて。

松ぶ梅の木
やつぞう
あるりの
水とそと
いやあの

ちづくと。内へとかきぶ。「ヤア」おまくいとてる。「こちの
人と。おどろきさとげ。「けべヤア」宿なしの蟲のやうな。
ざいくとのーまーしいヤヤ。ヤア〜。弥八六義。よくく見
られよ。狸の角えぐ。化の皮。只今正体をあらはし
ようと。いよいよ。ぎろくりろ。肌おーぬぎ。腰なる
ひとこーぬくよりぐろくゆく。たちまちどつとつたをう
る。おどろきすぐる。女房娘。あるじ夫婦めつぐ
うもとともりあきれく。飼なる。角えくるしき
息。ぜつぐ。「けなる狸ぐ」めくぐの生害。あのくよもさどふ

ちんすうん。當春鶴ぐ岡造営のみぎり。養蚕の
やめい。我主人塩谷判官高野師直よ恥しめられ。
あくくすれさどうぐ。判官どのまんはせつぷ
く。ひとよりそれぐーいけ村の狩人ぐ。ぐそた
ちぐぐつぐ。かけおちして鎌倉へ下り。おりそび判
官どのへはなそ。それより一家中ちりぐとなつさ
れべ。當村へこちゆう。ちさいをとけた。助平どん。
おうるぎの孫りつれる。与一えくどの聟となれ
ぬ。おのれ邪不肖なりとらくどる。主を思ふ忠心へい

〻〻大星父子よも。おとられべき。とうて勘平殿へ。
ら殿あなを。主人のあ〻〻師直めへ。うらとめんとおり。
ども。ゆて〻〻ぬ一大支まれば。うと心底もあうされ
ず。日よりをえあをせるあひごろ。おりひいけな
く勘平殿いきのふを〻切っく。死のひぬ。まむさ
んがう。さくい我〻〻ときうちの至も叶ぬ。そう
へりと殿さづぬれば。夫殿さらとあろともう。ら市
きく殿のあがいをうきとんざが證拠とすう。ふみ
よおりふ勘平殿を。とろしてのけさい。我あやまり。

朋友ふ弟し義をうしろい。主人へ忠もたるとれぬ。
しなみい生〻せんなければ。ばの〻どさいめしさいどぞ
や。と〻〻これが六義。「するるそど〻。一昨年家出ば〻
れしいこれ〻も殿処すう。さ〻いきがく嗚谷
殿へ。はをいうされし〻。とて〻いうする名字とうの
ま。すう役をつとあ〻れしとうべ角きく目とおし
ぬぐひ。「すのりをいいんもめんがく涙ぼくむ神さ、
せをければ。武士ふいう〻二合ぼ。そろをそいい
とびん奴。角内とい我本名。杢のみどりのそを眉

も。ゆくい屋舗より拾ひあれし。おかる母の供をして。
挑灯ともつて。足利屋の。門前まで。系つてが。主
人の家のいとなどひ。時も。かまつて。日もかまつず。主
平屋も俄の宿なり。たづきもなくぬ山崎村より。
相ずみたるも他生の孫。めとより我と。おてまへと
ちん。三人おなじ。物人なり。桃園の義をむすび
智仁勇の三福對。ろこーの三笑よも。ろこーみへ
旁らねど。森松樹よりそへーも。引哥よりありー
とぢつけぞや。ちろるよ六歳の義心。をとろ

石碑料。ろいとなまんとある。知一夜がみのちろ
五両。ろくへ。のま五両。ろざれば。當惑の心をさつ
し。娘なおーちの。嫁入へ。一歩と共よ東国へ。たつよ
ろーーーさ。さすれば二人が身のちろよて。十両の
金とてのひるば。石碑建立業の内。せあくいす志の
忠義よりと。おりひついろ。角内が心をさつー
て。孫八どの。お福もつれろ。ひされと。よをあをす
れば。孫八もやろう。なるよがさろく。するとち二人
ろ身のちろ銀南蹊ぐとられろ。あり。ひ十九日や五

おまゲたろうきりのおきあしの
ゆんくでよつわどぢやくのきて
ところをぬきぬきふゆふいおちちを
ゆしゝゝゝ
ゝゝいゝゝりの日ぢやア
ゆんぞ

ある日ゝゝゝゝ川ぞーのけいとさたびのめゝゝと
ちがつてちゝゝゝくりきのきゝぢも
あります

ゝゝゝゝくゝゝちゝゝゝゝゝゝゝが竹人
をおぎうしおのひちぐくて
おげーしのおあつ
ぢうきゆて
むゝふ
ゆゝさ

ゝゝゝゝゝ三わん塩ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝをきるゝゝゝ
いゝゝ将人ぢやゝゝゝ

ゝゝゝゝ
ゝゝゝ
ぢぎんさ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

十片一日一片の回向料百ヶ日まゐ。百ゝゝぬ八十片と
さゝ出せど。六義手ゝり引ゝ表なゝく。石碑
成就すれば迫へ。蚤まの目ゝらいこぬけうゝぶとれより石
屋ゞ方へ立とえ。勅平夏の石ゞゝり。嗚呼忠臣涉
腹と彫つけさせ。末の世ゝのこすべゝさゝく
ありゞゝ山吹の。小判ゝあゝぬ。面漆ゝおりきこれ
恩とおゝいゝでく。もいゝゝゝ一板ゞ板ゞつてと
ゝるひ出。玉猪の八千代まゞゝとも祝いれず。なまよ
生る姫ゝゝ。ゝゝゝゝめでゝゝ。ゝゝゝゝるゝいをいない。ゝゝ

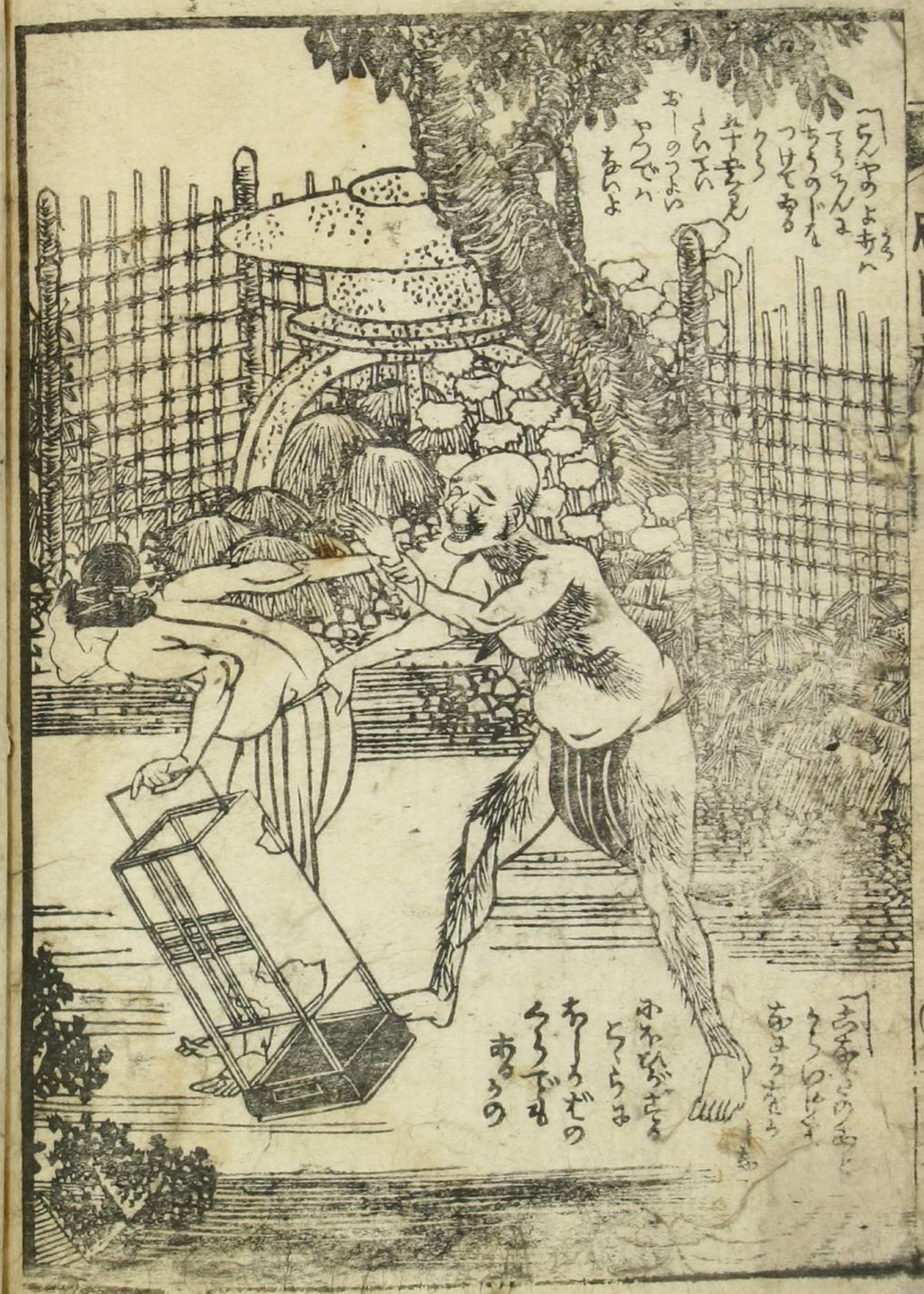
いゝとゞいやさよ。相づゝゝゝゝゝのゞ。さぞ
あゝゝゝゝゞゞゝゝゝゝゝ

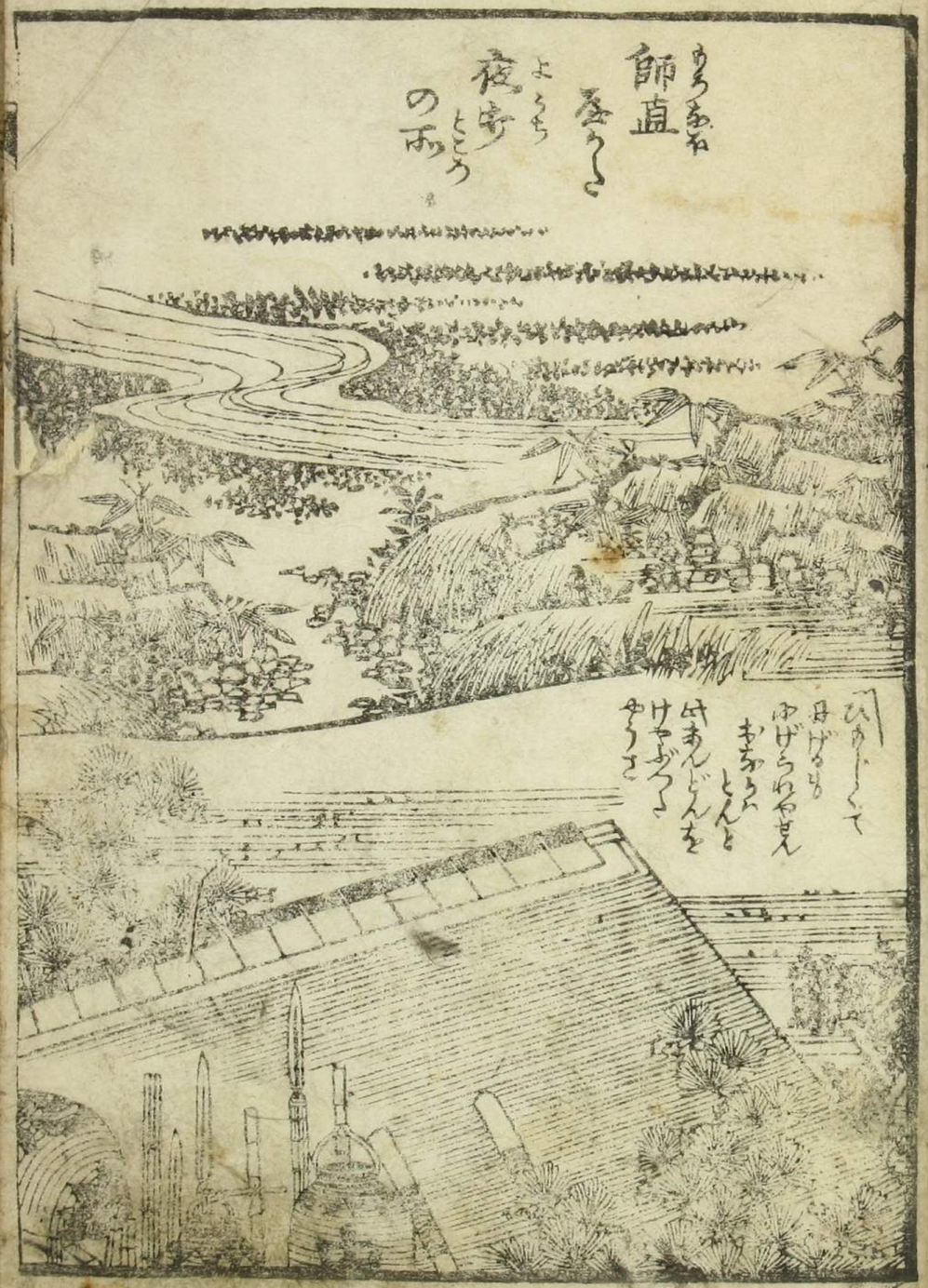
のあるじのたねが嶋。ひろい村よりこうこう二人
そのひとりを家よりう。一枚がつまりうらうら
い。両國四條の芝孤芝居よ。惟子のぶつこんせ物よ
ま百だひきこつこつ。そちらが身ハ狩人の娘のいん
ぐこ物。因果な娘が婚家へおひこの目録進上と。
らこいらうよりとり出すと一枚とつこつおりこ
ざた。こどりみんどつこつねがおいちがよられおし
ひこけで。目録なこぬ道中双六山こ小こ宿こま
こ。繪圖よこんここつけここり。絲八とつこつお

しこここで。鬢をまこぐここれしこい。一と六どの
家の名をつすれず。肌をなすすこの一枚へのこ
まあここん。コここ出発ぜ。ここちこんせ。これこを五
十三次をかなこあこむ。ひここりげ馬でいこいこ
中双六ここ。こねこ東海道と定めこれば箱根
八里ハこるここ。小こをここれハどーのここ
つこあが衿よここん。そこ家ここ。ここえてこ
絲八こよこどひ。あこるこの六こここっこ布ひこ
すここよ。行燈ここつこあこ。夫婦の子どもが

かしなだちなるむけの十二品なれる本編一丈い。
せごれ一ぢへ紀ぢかとみ。我せこが。積皇禪よする
圓石の。吉野の山よ氷奥ぞ下れるなごゆも長
ちこしかそ布。コレふんどーとなーかいくれ。
又ばのんどんか。嫗女へてなむけ。今ようなるたあ
つまのそ。旅館の寒燈。ひとり眠らず。山ゆうけ
の油ゑくずコレ賢さよ成させ下されると。
つこせびらけとる二人の子ども。角をへむすめが
成とらくそちぐなのゆさとを高の師

直が館なれが。ゆー塩谷家の浪人ちち。夜打と
なのを。みされ入なが。山紀が忠義成らけつぐ。
師直が寐所まぐ。ちびさーくらるせてく
れかまびぬのるコレおふく。ちその夜打を
ちちこへ。繻伴ひとつ行燈白つ。ゆぐ色く
辻のるくる。又聟屠もびつらーくよれ
そぐちぐ音さがーそのあんどーとなぐ
ずり。ちちくさよちくまどついく。世上よ紀と
のくちへが。名成さへちれるなと。末の末を





あんどるも蟲がぶする。いまもの一言。さてとそ
夜討の騒動。あんどん持とも福とふんど
長くひずり。首坊主の山二人今の世までも
らつ絵よそのおりげ食べのこーれ。時刻
うつるとめつぶらう弥八。子どもがも食とう。と
ちあがれ。うねくどのおいらがうげさ。れど
なるとどもりまく。などりをしさの山食。
いちぬとろぞいぢくしさておひを今をどん
まつ。おやちのえんも。玉とだこ。きく跡なき

戻ふとの。竹のちゆしよいとし子をすつるい世
話の藪の中。出ゆく足り蚊ぐとり。かちのく
ゆれ。ゆくうやむ。とれやたくちう道心と枕ち
ふるとちん宿。旅のちぐりい。一枚とお福とも
手よ手成鳥ぐるく。東の方へぞ出くゆく。

長門本忠臣蔵

飛彈匠物語 六樹園著 六冊	春霄奇談 璧落穂後編 五冊
舶蕃標注そのゝ雫 曲亭馬琴著 五冊	忠孝潮来武志 立川雪馬著 五冊
於春奈 高野薙刀 絲すゝ小枝繁著 二冊	絵入 長門本忠臣藏 六樹園門人清澄著 一冊

右之本當年出板仕ひ召出来申候ゝ下ひ

文化五年辰正月發行

江都書林　通油町　村田屋治良兵衛

麹町平川町二丁目　角丸屋甚助板